

横浜市青葉区民文化センター指定管理者選定評価委員会（第2回） 会議録	
日 時	令和4年7月27日（水） 9時15分～12時30分
開催場所	青葉区役所 4階 交流ラウンジ
出席者	委員長：西田委員 委員長職務代理者；石井委員 安彦委員 細谷委員 (計4名)
欠席者	なし
開催形態	一部非公開（傍聴者5名）
議 題	1 応募書類及び面接審査（公開） 2 指定候補者及び次点候補者の選定（非公開） 3 その他（非公開）
決定事項	横浜市青葉区民文化センターの指定候補者に「東急コミュニティー・神奈川共立・横浜市民施設協会共同事業体」を、次点候補者に「JNS共同事業体」を選定し、青葉区長に報告する。
議 事	<p>1 開会 事務局より、委員の定足数の確認を行い、「横浜市青葉区民文化センター指定管理者選定評価委員会運営要綱」第7条第3項の規定により、委員会が成立していることを報告。</p> <p>2 事務局説明 事務局より、次の通り説明があり、委員会の了承を得た。</p> <p>(1) 委員会の流れ 面接審査、休憩、審議・選定の順に行う。</p> <p>(2) 応募者について 応募者は2団体のため、応募書類及び面接審査は団体名を伏せて実施する。</p> <p>(3) 面接審査について プレゼンテーション25分、質疑応答20分とする。</p> <p>(4) 評価について ア 評価基準項目1から6までは5段階で評価する。配点が10点、20点の項目は5段階評価した点数に係数をかけて計上する。 イ 委員の評点を合算して総合評価を行い、その合計点が最も高い応募者を「指定候補者」とし、次に高い応募者を「次点候補者」とする。</p> <p>(5) 最低基準点について 最低基準点は、加減要素を除いた委員点数合計800点の60%、480点とする。</p> <p>3 応募書類及び面接審査（応募者プレゼンテーション・質疑応答） （公開、ただし応募者の関係者は除く） 欠格事項について、事務局から「該当なし」と報告。 応募者財務状況の確認結果については、財務専門委員から「審査対象から除く必要なし」と報告。応募者は2団体で、応募書類の受付順にプレゼンテーション及び質疑応答による審査を実施。</p>

【東急コミュニティー・神奈川共立・横浜市民施設協会共同事業体】

(1) 応募者プレゼンテーション

(2) 質疑応答

(主な質疑内容)

(委員) 必要人材の配置と機能において、文化事業コーディネーターと地域コーディネーターの配置予定人数が前期と変わらないが、お話いただいた提案内容を遂行できるだけの人数ということか。

(応募者) お示した通り、文化事業コーディネーターと地域コーディネーターは基本的に1名ずつの配置を考えている。お互いに補完し、連携しながら業務を遂行する。

(委員) 他のポジションから補充することはせず、内部での協力・連携関係を強くするアプローチを取るということか。

(応募者) ご認識の通り、横断的な連携は欠かさない。

(委員) 使命1「定量指標：アーティスト・データベースの活用」について、目標値「5回」とはどのようなことか説明していただきたい。

(応募者) アーティスト・データベースは次期指定管理期間から本格稼働できるように現在整備中のもの。地元を中心に、フィリアホールにゆかりのある団体に登録いただいて、出演活動をコーディネートする。活用数「5回」というのは、データベースに登録した団体の中から最低「5回」の登用を実現したいという意味。

(委員) 使命3で文化芸術の鑑賞機会を提供するための柱に掲げていただいた「上質なクラシックコンサートを中心とした音楽文化」について、プレゼンテーションからも、前期までの方向性を見直し、区民や市民の要望に応えられるような事業を展開していきたいという意図が感じられる。それは、ある意味で、指定管理者が考える押し付けにならないように、お客様目線で求められる鑑賞機会を提供するという意味合いになると思うが、その場合“上質”という言葉の意味は変わるのか。具体的にどのように考えているか。

(応募者) 我々が考える“上質”とは、“より良いものを”という意味。これまで以上に企画の価格、時間帯、シリーズの内容等を変革していき、お客様の鑑賞機会の更なる創出を目指していきたい。繰り返しになるが、我々がイメージするものは“真によいものを”という意味なので、若手・国内外のトップアーティストを問わず、出演アーティストが持てる力を最大限発揮できることだと考えている。

(委員) ある種の“ポピュラー化”とも捉えられるが、その線引きはどう設けるのか。どなたが判断するのか。

(応募者) 基本的に、事業は文化事業コーディネーターが企画し、皆で相談しながら判断していく。

(委員) その際に今後はより市民の声を聴いていきたいという意味合いか。

(応募者) ご認識の通りである。コロナ禍で利用者アンケートの集計が伸び悩んでいるところだが、今後は手法を改善しつつ、アンケートをできるだけ活用して市民の声を聴いていきたいと考えている。ただ、その際には、こういったコンサートをやってほしいという要望に応えるだけではなく、自らが届けたい音楽との整合性を取らなければならないと考えている。

(委員) 使命3の定量指標①②③でご提案いただいた企画実施回数目標値は実現できるかどうかの確認をさせていただきたい。

(応募者)できると考えている。実績を基にこの数値目標を算出している。
(委員)使命4の定量指標①②の提案指標についても、同じく確認させていただきたい。

(応募者)同じくできると考えている。区民企画・協働事業、横浜市芸術文化教育プラットフォーム事業参加及び独自の学校訪問企画の実施については、実績を基に目標値を設定しているため、達成できると考える。「定量指標①：社会的包摂の実現を目指す事業」については、社会的包摂自体の意味を考えると実現の判断が難しいと考えられるが、実現に繋がる事業として、年間この回数をやっていきたいと考えている。指標としては回数になるが、回数をこなすことが重要ではなく、企画の内容や手法を検討し、実施したその先を見越した企画であることが大切だと考えている。

(委員)社会的包摂について、将来的に子ども、高齢者、障害者などが参画するようなプログラムは考えているか。

(応募者)例えば、障害者と一緒に絵を展示する、高齢者とコンサートをやるといった画一的な事業企画のみで社会的包摂の実現に繋がるとは考えていない。すべての人がどのように関わって、互いにエンパワーメントされるかを考えたい。具体的な実施内容については今後検討を進める段階だが、地道な一歩から始めていきたい。

(委員)ご提案内容を配置予定人数できちんと対応できるかどうかを確認させていただきたい。

(応募者)これまでやってきたことを継続し、さらなる充実を目指すという意味で、現行要員の継続を考えている。

(委員)財務関係書類を見ても、新型コロナウイルスの影響があった厳しいこの2年間、しっかりやってこられているという印象を受けた。

【JNS共同事業体】

(1) 応募者プレゼンテーション

(2) 質疑応答

(主な質疑内容)

(委員)他に運営している文化活動が盛んな施設(北とぴあ、パルテノン多摩、逗子文化プラザホール)の自主事業の実施回数を教えていただきたい。

(応募者)北とぴあは、文化・産業両方の目的を持った施設であるため、子どもや働くお母さんを対象にした企画を多く実施している。直近では、地域との連携として、地元企業のSDGsの取り組みを地域の方々に紹介する活動を行った。パルテノン多摩は、この7月からグランドオープンした鑑賞事業がメインの施設である。国内外のアーティストによる鑑賞事業、年間30本を企画している。逗子文化プラザホールについては、地域の人々の文化に対する思いの強さを認識しているため、ワークショップや市民祭などの企画・立案等を行っている。

(委員)指定管理業務実施にあたっての基本的な方針を策定するにあたり、市の文化に対する理念や方針との関わりを考えたか。

(応募者)「横浜市文化芸術創造都市施策の基本的な考え方」や劇場の今後の在り方を参考にさせていただいた。横浜市は主体的に市民に幅広く音楽を届けるということをテーマに活動をされている印象を持った。その中で、青葉区民文化センターも同様の役割を担っていくべきだと考えている。

(委員)ご提案内容は横浜市の方針に沿っていると考えてよろしいか。

(応募者) ご認識の通りである。

(委員) 提案内容から、フィリアホールの存在は知っているが、利用したことはないという人に対して、もう少しサービスを拡大したいという方針を感じられる。そのやり方としてはいくつかあると思うが、クラシック音楽に興味のない人を取り込むということだと理解している。その際に、「誰でも来やすい演奏会を開くことによって…」というのは、ある意味で演奏会の質の低下に関連してくると考えられる。そうなった場合「フィリアホールの特徴を活かした質の高い公演」とは矛盾が生じると思うが、どうお考えか。

(応募者) ご指摘いただいた点は、我々としても本来の芸術の在り方とは異なるのではないかと思います、非常に悩ましかったです。とはいえ、我々としては、もっと裾野を広げたい、もっと多くの人に音楽を聴いていただきたいという思いが前提にある。そのため、国内外の著名な方を含めたアーティストの方による取り組みと、クラシック外の取り組みのバランスが大事だと考えている。これまでフィリアホールでやってこられた国内外の著名なアーティストによる公演を基本的な軸としつつ、そこに一事業や二事業、新しい取り組みを導入することが必要だと考え、今回の提案に繋がった。

(委員) 区民から施設に来てもらうことにはハードルがある。裾野を広げるためには教育プログラムが重要になる。提案内容の若手育成は主に演奏家の育成だと思われるが、一方で将来の来館者となる区民の教育に繋がるようなプログラムは何かお考えか。

(応募者) 若手の育成については、子どもを対象にした事業を考えている。29 ページ「エデュケーション&コミュニティプログラム」に挙げた通り、音楽に興味を持ってもらえるような企画を検討している。

(委員) この企画は実際に足を運んでくれることを前提としたプログラムであると思う。

(委員) 応募理由において、1年間で約 1,000 万円の指定管理料の削減をご提案いただいたが、サービスの低下には繋がらないということを確認させていただきたい。

(応募者) サービス低下には確実に繋がらないと考えている。勤務体制は現行と遜色なく、事業についてもこれまでの実施回数を最低でも維持できるように考えている。

(委員) 事業アドバイザーの招聘について、専門家に外注するといったニュアンスに受け取ったが、裏返すと自社に企画の力がないとも受け取られかねないが、そのあたりはどうお考えか。

(応募者) 招聘予定者について、外注や委託はまったく考えていない。パートナーとして一緒に考えてもらうことをお願いしている。事業企画について全国的な動向や知見を持つ方なので、アドバイザーとして様々な意見をもらいながら、我々の方でブラッシュアップしたいと考えている。

(委員) 地域連携に力を入れたいとのご提案において、配置予定者は全国的に実力経験のある方が揃っている印象だったが、青葉区や市をよく知る方はどのくらい含まれているのか教えていただきたい。

(応募者) 地域連携を進めるにあたって、我々も課題と認識しているところである。フィリアホールや青葉区における指定管理の実績がないため、一から地域の皆様との関係を構築する必要がある。職員については、代表団体が「関係人口の拡大」を得意としていることもあり、他施設でも地域に自ら出向き、一緒に何かできることがないかと、足がかりを築いてきた。そういつ

たノウハウを持つ職員の配置を検討している。ただ、青葉区についてよく知る人については、地元人材の採用など今後の検討課題となるところである。地域の皆様の力を借りながら、ともにやっていく必要があると考えている。

(委員) 高齢者の見守りについて、抽象的な提案なので具体的な内容をお聞かせいただきたい。

(応募者) 施設所管課、ケアプラザなどの関係機関との連携を密にとることで、安心・安全なまちづくりに寄与していきたい。

(委員) 公の施設に対する理念はどのように考えるか。

(応募者) 公の施設運営における一番の使命は、地域に住む方、働く方、学ぶ方、すべての方に対して均一にサービスを提供することだと考えている。文化施設であれば、芸術鑑賞を届けることが最大の使命と考えるが、この基本的な考えに基づいて、他の施設の運営を行ってきた。地域の企業、各団体、個人と連携することが大事と考える。

(委員) 外部資金の活用について、どのくらいの見込みがあるか。

(応募者) 外部資金については、すべて含んだうえで提案をさせていただいている。日本室内楽振興財団助成金や、文化・芸術活動助成事業としてのフィリアホール開館 30 周年記念の室内オーケストラの創設に係る事業経費、文化芸術振興費補助金、管弦楽団との共催で行うニューイヤーコンサートに一部助成いただくことを考えている。

(委員) どのくらいもらえる確率がありそうかということを知りたかった。

(応募者) 確実なことはまだ言えないが、とれるように尽力したい。

2 指定候補者及び次点候補者の選定について (非公開)

(事務局) 評点について、集計したものを委員に提出。

順位	団体名	総合評価
1	東急コミュニティー・神奈川共立・横浜市民施設協会 共同事業体	762 点
2	J N S 共同事業体	658 点

(総合計点数 800 点 +80 点～-40 点)

【指定候補者及び次点候補者に関する講評】

・指定候補者に関する講評

当該団体は現指定管理者として、第 1 期、第 2 期を通して青葉区民文化センターを、利用者や地域から愛され、信頼される施設に発展させてきた実績がある。指定管理 3 年目に実施した第三者評価において、いくつかの課題¹が示されたが、課題解決に向けて明確な方策を検討し、今回の提案内容に反映しており、管理運営におけるたゆまない努力と成長が見て取れた。また、組織面については、当該施設が誇る質の高い事業の提供に相応しく、事業企画、施設管理、運営等に優れて精通した人材が揃っている。さらに、横浜市の文化政策及び当該施設の使命に対する十分な理解の上で、当該施設と青葉区民に向けての真摯な取り組み姿勢と熱意が応募理由に示されていたことも高い評価となった。このような理由を以て、青葉区民文化セン

¹ 指摘のあった主な課題

- ①施設の理念が明確かつ市の文化政策に沿っているか
- ②地域へのアウトリーチ（教育文化活動）が十分か

	<p>ターに適した良い管理運営を推進される指定候補者として当該団体を選定した。</p> <p>次期指定管理期間においては、当該施設の特徴である「良質な音楽の提供」と「地域文化活動拠点」という2つの柱の達成を、構成団体（共同体）の各々の強みを活かしながら目指していただきたい。</p> <p>・次点候補者に関する講評</p> <p>当該団体は数多くの施設運営実績を持ち、事業領域も広い。SNS等の広報媒体の効果的な活用によって、より幅広い対象に音楽を届けたいという前向きな姿勢が見受けられた。また、指定管理料削減の取り組みや、経験豊富な人材の配置は優れた提案内容であった。このような点は高く評価した一方で、基本的な提案方針が全国どの施設にも適用できるような汎用性があり、青葉区や当該施設に特化した具体的な内容については、検討・反映が十分になされていないように感じられた。また、当該施設で実施したい企画に対する取り組み姿勢や意欲は伝わったものの、それを遂行するだけの組織編成や（財政）基盤整備が必要であり、さらなる努力を期待したいところであった。</p> <p>【総評】</p> <p>応募のあった両団体とも、実績豊富で提案も優れており、どちらが選定されても水準以上の運営が期待できる内容であった。指定候補者には、これまでの取り組みを継続・発展させ、青葉区民文化センターの更なる発展、ひいては青葉区の芸術文化振興に寄与する役割を担っていただきたい。</p> <p>3 その他（非公開）</p> <p>講評、総評に基づき、報告書を青葉区長に提出する。</p> <p>報告書と会議録の確認は、委員全員に確認を取った上で委員長に一任する。</p>
資 料	<ol style="list-style-type: none"> 1 次第 2 第2回委員会について 3 応募書類 4 評点表 5 報告書（素案）